

国語 第6学年 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう 検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し：中心はC(1)エ（人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること）と、(1)ク（比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと）。二つの場面を比べることが物語全体を想像する手立てで、色や光の言葉、比喩や反復の働きを考えると表現の効果に当たる。本時の題名の問いは、この二つを一度に使う問いにしている。

指摘 2：評価規準は何か。どこで見るのか。

返し：3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第2～4時の表現カードと比べる表、思考・判断・表現①は本時のノート、②は第7時の文章、③は第8時の付箋と振り返り、態度①は第7～8時の文章の見直しと振り返りで見る。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：C(2)イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」。物語と、賢治の生き方を伝える資料を読み、作品に込められた思いについての考えを文章にまとめて伝え合う。

指摘 4：クラムボンの正体を話し合わせないのか。子どもは一番気にする所だ。

返し：何を指すかは作品の中に書かれていないので、決める話し合いは根拠の叙述が出ず、時間だけかかる。気にする子が多い時は、第2時に「何を指すかは書かれていない」と確かめたうえで、「その言葉の響きや使われ方から、どんな感じを受けるか」を問う。これなら(1)クの表現の工夫と、C(1)エの表現の効果の学習になる。

指摘 5：作者の思いを先生が決めつけることにならないか。正解は何か。

返し：作者の思いを一つの正解にはしない。評価するのは、比べる表と資料を根拠にして自分の考えをまとめているか（C(1)オ）と、友達の考えと比べて考えを広げているか（C(1)カ）で、考えの中身が先生の考えと同じかどうかではない。

指摘 6：個に応じた指導はどうするのか。

返し：読むのが苦手な子には、場面ごとの拡大本文とルビ、比べる表の観点を先に書き入れたワークシートを渡す。書くのが苦手な子には、まとめの文の型を板書で示す。早く終わる子には、兄弟の会話が二つの場面はどう変わったかを考える問いを用意する。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 7：ICTは使わないのか。

返し：三つ想定している。やまなし（植物の実）やかかわせみの写真を大型画面で見せること、比べる表を共有の画面で作って全員の書き込みを一度に見ること、第8時に文章を端末で読み合ってコメントを付けること。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ紙の表と付箋で同じ活動ができる。

指摘 8：教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

返し：手引きは指導要領の指導事項に沿って作られているので、外す理由はない。この指導案の工夫は、比べる観点を六つに決めて単元の中で同じ表を使い続けること、資料を作品を比べた後に読む順にしたこと。教材は第3の3(1)の「言語活動が十分行われるよう教材を選定する」に沿い、C(2)イに合う。

指摘 9：8時間では足りない。

返し：8時間は光村図書の年間指導計画例の配当に合わせた。足りない時は、第2時と第3時を一時間にまとめ、二つの場面を同じ時間に読んで比べる表に直接書かせる。賢治のほかの作品は、第3の1(6)と第3の2(3)に沿って学校図書館の時間に並行読書に充てれば、単元の時数を増やさずにできる。

指摘 10：発問が多すぎないか。

返し：本時の中心発問は「題名が「やまなし」なのはなぜか」の一つ。かにの親子の様子や色・光の言葉についての問いは、中心発問に答えるための補助で、全体には中心発問だけを板書する。(1)クの表現の工夫は、第3の1(3)にあるとおも思考・判断・表現に当たる事項の指導を通して扱うので、別の発問は立てない。

指摘 11：板書はどう使うのか。振り返りは何を書かせるのか。

返し：比べる表を第4時から同じ形で掲示し、本時は「上から来た物」の列を囲んで考えの根拠にする。子どもの考えは根拠にした列ごとに並べて表と線で結び、違う考えも消さずに残す。振り返りは「比べて気付いたこと」と「友達の考えを聞いて付け加えたいこと」の二つで、後者が第8時のC(1)カにつながる。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第5学年及び第6学年〕2内容C読むこと(1)イ・エ・オ・カと(2)イ、〔知識及び技能〕(1)ク・(3)オ、学年の目標(2)(3)。教材の観点は第3の3(2)キ「自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと」に当たる。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

